青梅市文化財ニュース　第　４４　号

平成　３年　７月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

千ヶ瀬の字名

昭和５年の調布村全図や当時の公図を見ると、千ヶ瀬は西から田端（たばた）西平、北平、南平、東平、平林と字の名が書かれてあります。しかし、地元では田端は端ケ田（はけた）琴河原、若宮、池ノ尻、等。西平は西原（にしっぱら）。北平は山根。南平は東原（ひがしっぱら）。東平は嵯峨々々（さがさが）。平林だけそのままの読みで呼ばれていますが、これらの名のほうが親しみやすいようです。この字の漢字もいろいろな書き方があります。例えば、琴河原は古くは籠手河原という書き方があり、落武者の籠手が落ちていたからというものや、古渡河原で書くこともありました。端田の書き方があり端田がひっくりかえり、田端となったようで、今も田端橋という名の橋があります。そのハケタのハケは、端（はし）とか崖の付近を表しているアイヌ語ではないかという説があります。端ケ田も多摩川の河岸段丘の青梅と千ケ瀬の段の下に位置し、昔は水田がありましたので、ハケにある田で端ケ田と呼ばれるようになったと思われます。また調布橋の通りの東側あたりもハケ（端ケ）と呼んでおり、その西側は離れていますが、琴河原分になっていました。面白いところでは、嵯峨々々があります。今でも年配の方は「さがさま」と呼んでいますが「さがさが」がなまって呼ばれていると思われます。この漢字は千ケ瀬神社の棟札には「坂坂」と書かれていますが、宗建寺の過去帖には「嵯峨々々」で嵯峨の意味には山の険しくて石がゴツゴツしている様だといいます。その場所は山ではありませんが土地を掘るとよく大きな石がゴツゴツしている様だといいます。また伝えでは「蜡蛾々々」がありますが、蚕のことだそうで、昔はその付近では蚕を養う農家が多くあったからではないかということです。

小字に「なかかがいと」または「なかがやと」と呼ばれる所があります。なまって「なかげえと」と呼びます。ちょうど千ケ瀬の中央あたりです。その漢字は中ケ谷戸、中改戸、中茅戸、等と書きます。また、地名ではなく屋号に「しもげえと」というのがあります。そこで「しもげえと」「なかげえと」とあるから「かみげえと」というのがあります。そこで「しもげえと」「なかげえと」とあるから「かみげえと」もあるかというと、それは「ねえがま」というそうで、漢字で内釜とかく場所が、「なかげえと」の西よりの所にあります。「かいと」という字は日当りのよいちょっと小高い場所に見える地名だそうです（長淵にも寺改戸という小字があります）村の古老に昔の字を開くうちに、今の何丁目何番地より字名のほうが親しみが持ててきました。

（文責　棚橋正道）